

SHINJO妊娠期からの支援における多職種連携のあり方を考える会
第1回 研修会

妊娠期から子育て期の家族を支える それぞれの役割と実践、連携上の課題

このたび、妊娠期から子育て期において支援に携わっている看護職（保健師、助産師、看護師）、医療ソーシャルワーカーの役割と実践、および産科医療施設での取り組みについて理解を深めるとともに、連携上の課題を共有することを目的として、研修会を開催することになりました。

皆さまのご参加をお待ちしています。

【日時】 2025年3月20日（木・祝）13時-17時

【会場】 神戸女子大学ポートアイランドキャンパスF館3階F304

【開催方法】 会場とオンラインのハイブリッド（ただし、第3部は会場のみ）

【対象】 妊産婦・家族の支援に携わる専門職等（医師、助産師、保健師、看護師、医療ソーシャルワーカー、心理士、自治体担当者等）

【定員】 会場参加：70名（先着順）、オンライン参加：100名

【共催】 神戸市こども家庭局

申込期間

2025年1月6日（月）～2025年3月12日（水）

参加
無料

研修内容

【第1部】 パネルディスカッション

●看護職と医療ソーシャルワーカー：それぞれの役割と実践・連携上の課題

【第2部】 実践報告：産科医療施設での取り組み

【第3部】 グループワークとディスカッション：対面のみ

* 詳細は裏面

* 受講者には修了証を発行します。

申し込み方法

申し込みフォームよりお申し込みいただけます

申し込みフォーム

URL

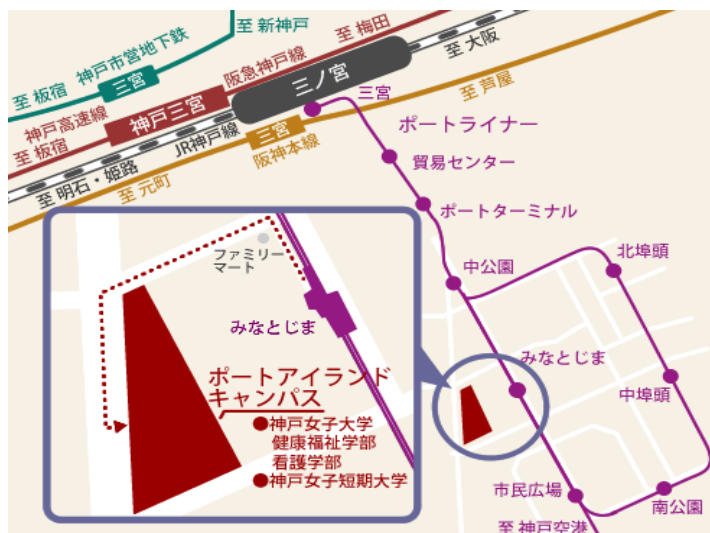
<https://forms.office.com/r/TDwnP3v5Uv>

QRコード



<プログラム>

| 時間 | 内容 |
|-------------|--|
| 12:30～13:00 | 受付 |
| 13:00～13:05 | 開会のごあいさつ |
| 13:05～14:45 | 【第1部】 パネルディスカッション「それぞれの役割と実践、連携上の課題」 (話題提供者) ・助産師の立場から(北村久美氏:なでしこレディースホスピタル) ・医療ソーシャルワーカーの立場から(友次佳代氏:西神戸医療センター) ・訪問看護師の立場から(伊藤慈子氏:訪問看護ステーション つな樹) ・保健師の立場から(小澤恵氏:神戸市こども家庭局) ＊コメンテーター:山田顕子氏(西神戸医療センター 精神看護専門看護師) |
| 14:55～15:25 | 【第2部】 実践報告:産科医療施設での取り組み 講師:大橋正伸氏(なでしこレディースホスピタル院長) ＊コメンテーター:清野仁美氏(兵庫医科大学精神科神経科学講座) |
| 15:30～16:55 | 【第3部】 グループワークとディスカッション 1)グループワーク ・妊娠期から子育て期の家族を支える上での、それぞれの役割・実践を互いに紹介する ・第1部(パネルディスカッション)と第2部(実践報告)を通しての学び、気づき、疑問を聴き合う 2)全体ディスカッション:各グループからの発表とディスカッション |
| 16:55～17:00 | 閉会のごあいさつ |



<会場へのアクセス>

神戸女子大学 看護学部
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2

- 三ノ宮駅・三宮駅からは、ポートライナーの「神戸空港行き」「北埠頭行き」を利用し、みなとじま駅で下車してください(徒歩約10分)

「SHINJO妊娠期からの支援のための多職種連携のあり方を考える会」について

近年、妊産婦の孤立・孤独が社会問題となっており、さらにコロナ禍において妊産婦のメンタルヘルス問題も深刻化している中、妊産婦と家族への支援の重要性はさらに増しています。ただし、妊産婦や家族のニーズは多様であることから、関係する機関や職種が多岐に渡るなど課題が多く、有機的な連携は容易ではありません。

このような状況を受け、このたび、神戸女子大学(SHINJO)看護学部教員らにより、「SHINJO妊娠期からの支援のための多職種連携のあり方を考える会」を設立しました。本会は、妊産婦と家族のニーズに基づく支援を妊娠期から継続して行うため、多職種が互いの役割・機能の理解を深め、連携上の課題を具体的に明らかにし、連携のあり方を検討することを目的としています。

<問い合わせ先>

小坂 素子(神戸女子大学・看護学部)
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
e-mail : kango-renkei@yg.kobe-wu.ac.jp